

企画名：Go オーガニック！小売店をネオニコチンフリーへ——稲作におけるネオニコチノイド系農薬規制強化にむけて

団体名：国際環境 NGO グリーンピース・ジャパン

1. 報告要旨

2018 年度は、外部要因として、

1. 欧州でネオニコチノイドの全面禁止の決定が見込まれること、
2. コメの検査規格の見直しが始まること、
3. 農薬取締法の改定があること、
4. ネオニコチノイド系農薬を止めるための情報発信を市民活動全体として効果的に行えるような、他団体との協働を念頭に活動の柱を立て、実施した。

4 月の欧州でネオニコチノイドの全面禁止の決定とその報道の機会を活かし、前年度から継続してきた斑点米の署名数を伸ばし(計 146,630 筆)、6 月に、斑点米をめぐる重要なステークホルダーである養蜂家、農家、消費者とともに提出した。このかん、農薬取締法の改定があり、立憲民主党の農林水産部会で他団体とともに問題についてのレクチャーを行なった。国会議員の間でネオニコチノイドに対する関心を高める上で上記の報道は大きく役立ち、国会議員によるネオニコチノイドに関する発言/質問はこの時期だけで 10 を超えた。ネオニコチノイドは優先的に再評価する農薬に入ることが確認された。

ネオニコチノイドに関する活動団体との連携を広げ、情報発信を強化する活動では、4 月に行った生協アンケートの結果を活用し、生協と協働で、情報を受け取る立場の人の側に立ち、その人を主人公としたストーリーを作ることで発信内容を構成する「サポータージャーニー」と「ストーリーテリング」のワークショップを 3 回実施した。

斑点米の規格については、農林水産省が非公開としてきた行政アンケートの結果を情報開示請求により入手、公開し、記者の関心を喚起した。19 年 1 月から始まったコメの検査規格の見直しに関する農林水産省の懇談会では、アンケートの全結果が資料として公開された。同懇談会の傍聴と委員への働きかけを継続している(進行中)。

2. 成果物

1. [農産物検査法とネオニコチノイド系農薬の水田への散布に関するアンケート調査の結果](#) (2018.3~5)
2. [2017 年度実施の「国産オーガニックの野菜やお米を全店舗に置いてください」署名 9,254 筆をイオンとユニーに提出し面談](#) (2018.4.16)
3. 報告書『[有機農産物を身近にするために ~過去 2 年で消費者の意識と小売店の取り扱い方針はどう変化したか](#)』(2018.5.15)
4. 「[徳島県 生協と農家の挑戦 ~ネオニコを使わない田んぼにコウノトリが戻ってきた](#)」(2018.6)
5. 署名「[むやみに農薬を使わないお米がいい!](#)」14,630 筆を農家、養蜂家、消費者団体と共に農林水産省に提出 (2018.6.26)
6. 情報公開で入手した「[農産物検査\(お米\)に関するアンケート結果](#)」公開 (2018.11.30)
7. オンライン署名「[より安全なお米まであと一歩!](#)」開始 (2018.10)
8. リーフレット「[農薬と健康のひみつ](#)」増刷
9. リーフレット「[お米とミツバチの関係](#)」
10. 「[無農薬のお米作りを広める、異色の農協](#)」(2019.2.27)